# 三鍼法の効果を臨床データで見る



三鍼法の効果を臨床データで見る
中国の山西省にある、山西三針脳血管病院の
院長　賈馬志（か　ばし）先生の三鍼法の統計データをご紹介します。

（書籍　「脳梗塞　絶望からの生還！　三鍼法の威力　著者　林義貢」　から抜粋）

## ●表１　三鍼法と伝統式刺鍼法との比較

| | 病例数 | ほぼ治癒<br>例数（%） | 有効<br>例数（%） | 総有効数<br>例数（%） | 無効<br>例数（%） |
|---|---|---|---|---|---|
| 伝統式刺鍼法<br>（北京） | １４８ | ５７（38.5） | ５６（37.8） | １１３（76.4） | ３５（23.6） |
| 三鍼法<br>（山西） | ４７５ | ２６２（55.2） | １９３（40.6） | ４５５（95.8） | ２０（4.2） |

## ●表２　臨床データ

| | |
|---|---|
| 患者数 | 475 名 |
| 性別 | 男性（282 名）女性（193 名） |
| 年齢 | 最高 91 歳～最低 3 歳 |
| 病歴 | 最長 24 年～発作直後 |
| 病種 | 欠血性（363 名）出血性（112 名）混合性（12 名） |
| 症候 | 言語障害（148 名）左片麻痺（217 名）<br>右片麻痺（226 名）全身麻痺（32 名） |
| 診断方法 | CT 検査　腰椎穿刺検査 |

治療及び観察期間：1989 年 3 月 1 日～ 1992 年 2 月 29 日

今回の臨床データ表 2 のように、患者総数は 475 人、最高年齢は 91 歳、最低年齢は 3 歳と幅広い年齢層で行っています。

また期間は、1989 年 3 月から 1992 年 2 月までの 3 年間臨床結果の検査方法として CT（コンピューター断層撮影法）検査腰椎穿刺検査をおこない、診断の正確さを図っています。

## ●表３　出血性脳卒中と梗塞性脳卒中の発症後の経過期間による治療効果

| 病位 | 病歴 | 症例数 | ほぼ治癒<br>例数（%） | 有効<br>例数（%） | 総有効率<br>例数（%） | 無効<br>例数（%） | 初回有効率<br>例数（%） | 平均治療<br>回数 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 出血性脳卒中 | １カ月以内 | 12 | 7(58.3) | 4(33.3) | 11(91.6) | 1(8.3) | 9(75.0) | 31 |
| | １～６カ月 | 36 | 19(52.8) | 16(44.4) | 35(97.2) | 1(8.3) | 26(72.2) | 33 |
| | ６か月～１年 | 26 | 12(46.2) | 11(42.3) | 23(88.5) | 3(11.5) | 18(69.2) | 35 |
| | １年以上 | 38 | 9(23.7) | 21(55.3) | 30(78.9) | 8(21.1) | 26(68.3) | 37 |
| | 合計 | 112 | 47(42.0) | 52(46.4) | 99(88.9) | 13(11.6) | 79(70.5) | 35 |
| 梗塞性脳卒中 | １カ月以内 | 65 | 51(78.5) | 14(21.5) | 65(100) | 0 | 51(78.5) | 29 |
| | １～６カ月 | 124 | 87(70.2) | 37(29.8) | 124(100) | 0 | 93(75.0) | 31 |
| | ６カ月～１年 | 70 | 41(58.6) | 26(37.1) | 67(95.7) | 3(4.3) | 51(72.9) | 35 |
| | １年以上 | 104 | 36(34.6) | 64(61.5) | 100(96.2) | 4 | 72(69.2) | 36 |
| | 合計 | 363 | 215(59.2) | 141(38.8) | 356(98.1) | 7(1.9) | 267(73.6) | 33 |
| | 総合計 | 475 | 262(55.2) | 193(40.6) | 455(95.8) | 20(4.2) | 346(72.8) | 34 |

表３によれば、三鍼法療法の総有効率は 95.8%に達し、特に初回の有効率は 72.8%に達しています。

表１・表３の２つの表から、三鍼法療法が初回で何らかの結果を得ることができること、また全く効果がなかったという人がきわめて少ないということが分かります。

このことが「驚異の治療法」と言われる理由でもあります。

症状は出血性脳卒中と梗塞性脳卒中による言語障害、左片麻痺、全身麻痺です。
表 3 は出血性脳卒中梗塞性脳卒中の発症後の経過期間における治療効果を示したものです。
この表の総合データを見ると、『ほぼ治癒』したことを示す治癒率 55.2%、総有効率は 95.8%、初回有効率は 72.8%、平均治癒回数は 34 回になっています。
95.8%の人に何らかの効果がみられたという驚異的な数字は、三鍼法がほとんどの患者様に何らかの結果を出したということを示しています。
病種別総有効率を比較すると、出血性脳卒中と梗塞性脳卒中に対してどちらも有効率は高いのですが、特に梗塞性脳卒中に対して明らかに高い有効率を示しています。
この表でもう一つ大事なことは、発症経過後のどの期間が一番有効かということです。
出血性脳卒中の場合、ほぼ完治は 1 カ月以内がいちばん高い効果を上げていますが、総有効率を見ると 1 カ月以内よりも 1 ～ 6 カ月の間がいちばん効果が高いことが分かります。
出血性の場合は病状の安定期から回復期に治療することが有効であることを示しています。
6 カ月を過ぎると効果は減少していきます。
出血性脳卒中も梗塞性脳卒中も、初回で効果を上げるには発症から早ければ早いほど効果を上げています。
また治療回数も早期治療ほど少ない回数で済みます。

## ●表 4　年齢別の治療効果

| 年齢 | 病例数 | ほぼ治癒<br>例数（%） | 有効<br>例数（%） | 無効<br>例数（%） |
|---|---|---|---|---|
| 40 歳以下 | 31 | 17（54.9） | 13(41.9) | 1(3.2) |
| 41 ～ 50 歳 | 63 | 36（57.1） | 27(42.9) | 0 |
| 51 ～ 60 歳 | 184 | 108 (58.7) | 72(39.1) | 4(2.2) |
| 61 ～ 70 歳 | 157 | 86（54.8） | 66(42.0) | 5(3.2) |
| 70 歳以上 | 40 | 15（37.5） | 15(37.5) | 10(25.0) |
| 合計 | 475 | 262（55.2） | 193(40.6) | 20(4.2) |

表 4 は年齢別の治療効果を示しています。

各年齢層の患者さんにいずれも有効であることが分かりますが、70 歳以上の患者さんの場合、効果が低くなっています。

高年齢になればなるほど免疫力も低下し、自然治癒力が働きにくくなっていると言えます。

この表では、「ほぼ治癒」が 51 ～ 60 歳にもっとも高い率を示しています。

40 歳以下では先の年齢層より「ほぼ治癒」率が低く、向こう率も高年齢層（61 ～ 70 歳）と同率です。

このことは脳卒中の場合、低年齢の発症ほど、症状が重いものであることが考えられます。

## ●表５　発症回数別の治療効果

| 再発<br>発症回数 | 病例数 | ほぼ治癒<br>例数（%） | 有効<br>例数（%） | 無効<br>例数（%） |
|---|---|---|---|---|
| 初発 | 408 | 249（61.0） | 156（38.2） | 3（0.7） |
| 1 回再発 | 46 | 12（26.1） | 27（58.7） | 7（15.2） |
| 2 回再発 | 21 | 1（4.8） | 10（47.6） | 10（47.6） |
| 合計 | 475 | 262（55.2） | 193（40.6） | 20（4.2） |

表５は発症の回数別の治療効果を示したものです。

初発症と再発症では治療効果に大きな差があらわれています。

また発症の回数が多いほど、効果は低くなっています。

また発症の再発は「ほぼ治癒」がたった 4.8％に過ぎません。

しかし初発での「ほぼ治癒」は 61％に上がっています。

また有効率を含めれば、なんと 99.2％という驚異的な数字を示しています。

これらのデータから見ると、

発症からなるべく早期に治療を受けること。

初発の時に受けること。

予防治療が大事であること。

以上のことに留意することで、三鍼法の治療をより有効に活用できるものと考えています。